

おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 9 号 (6 月 14 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新チーム 船出は大荒れ

6 月 11 日 (土) 新チームとして初の公式戦、Y1 第 6 節山形商業戦が行われました。6 月 6 日に新キャプテンが選出されたばかりで、「ショウタの代」のまさに始まりの試合¹。6 月 13 日～15 日に前期中間考査があるため、10 日 (金) に軽く練習をして、ぶっつけ本番で試合に臨む。場所は日大山形グラウンド (俗称 ND 山形グラウンド)。難癖つけるわけではないのですが、このグラウンドでの公式戦でここ数年勝っていないような……。前日からの降雨により、グラウンドには水たまりが目立つ。しかし乾いている所もあり、戦術の徹底にちょっと苦慮するコンディション。山商は、今年 1 部に昇格してきたチームながら、県総体で羽黒と延長戦まで行ったことから分かるように力のあるチーム。新チームの船出はどうなることやら、と不安を抱えたままキックオフ。

試合が始まると、山商のスタメンのほとんどが 2 年生であると気付く。意図的にメンバーを落としたわけではないのですが、負けたくない、という気持ちが沸々とわき上がる。もともと今年の山商は 2 年のレギュラーが多い。「新チームで臨むから厳しい試合になっても仕方ない」というような負けたときの言い訳は、使うことが許されない。試合は序盤から山商優勢で進むも、山東の流れ。技術・戦術理解で劣っている山東からすれば、ボールを保持され攻め込まれる時間が長くと、泥仕合に持ち込むことができれば御の字な訳で、そういった意味からいって序盤の膠着状態は山東の流れ。まだまだガツガツしたところが足りないながら、相手 MF に次々とアプローチして、球離れの悪い山商 MF のミス誘うことができている。よしよし、と思って戦況を見つめていると、誰がボール保持者に最初のプレッシャーをかけるか迷う連係ミス²から、ゴール前で山商の選手をフリーにしてしまい、そのままニアサイドに決められて失点。一瞬の気の緩みとでも表現したら、すべての現象を精神論で説明しすぎになってしまうかもしれませんが、正直、気の緩みとでも書きたくなる何とも稚拙な失点の仕方。ところがその後、山東の攻撃が少しずつ形になり始める。上のチームでも出場していたゴメが FW として縦横無尽にピッチを駆け回り、GK のファインセーブがなかったら同点だった！という惜しいシュートを放つ。また神町出身一年リクの左サイドの突破から、オーバーラップした二年マンサク (左 SB) が GK

¹ ちなみに山形東では、主将以下役付きはすべて推薦の投票により決せられます。20 年ほど前は立候補という制度がありましたし、新主将以下の決定も 4 月だったような。4 年ほど前から (鬼嶋が主将に選出された際の投票から) 1 年生の投票権を失くし、人となりを深く知る 2・3 年生で主将を決めることになりました。顧問には発言権・投票権はありません。

² このようなミスは、基本的に、「一番近くにいるのは自分だから自分がいく」という積極性を欠いたときに起こるミス。丁度、複数人でバレーやサッカーのリフティングをやっているときに、人と人の中間地点のボールに誰も反応せず、そのまま落としてしまうことがあるが、それと同様のミス。声を出して連携をはかるというコミュニケーションを欠いた時にも起こると言えます。

の手前でセンターリングに合わせ、ものすごく惜しいシーンを作り出す。決して悪くない内容に気を良くしていると・・・動き出しの良い山商 FW に裏を取られてしまい、ショータ(CDF)が得意のスライディングでボールを掻っ攫おうとするも、PK を与えてしまう。スライディングでボールを奪い返してはいるものの、確かに後方から相手を倒してしまっており、仕方がないところか³。しっかり PK を決められ 0 - 2 へ⁴。その後、アウトサイドでのまずい守備からゴール前でフリーの選手を作ってしまう、0 - 3 となる。厳しい試合になることは分かっていたましたが、前半で 0 - 3 のスコアは正直山商としてはつまらない。劣勢のチームが粘らないことには勝負は面白いものにならないだけに、単純に力不足は否めず。ただ、前半のうちにリクの突破からゴメのスライディングシュートが決まり一点を返したのは、明るい材料。やられはしましたが、見せ場も作った前半でした。

ところが！ 後半になると山商の中盤のプレスが甘くなり、山商の MF を自由にプレーさせることが多くなり、ボールを散らしてワイドに攻める山商の攻撃に鋭さが増す。途中交代したユータローが強気なプレーでシュートシーンを作ったことを除いて、率直に言って山商に好材料は何もない後半。DF がゴール前でしてはいけないプレーを連発し、そのたびに山商にゴールを許して崩れ、後半だけで 3 失点。結局 1 - 6 での大敗。船出を勝利で飾ることができなかったばかりか、崩れるような内容の悪すぎる大敗にどこにぶつけて良いか分からない怒りを覚えた、そんな初戦でした⁵。ここから出発するしかないという現実のスタート地点を示された山商戦を受け、テスト休み明け 15 日からの「ショータの代」の練習は、激しく厳しくそれでいて楽しいものであってほしいと思います。

Y1 の次節第 7 節 (6 月 18 日、19 日) は山商の休みに当たるので、次の公式戦はやや離れた下記の通りとなります。その試合では、ちょっとでも初戦より成長した姿をお見せできればと思います(し、久しぶりの ND グラウンドでの勝利をぜひものにしたいと思います)ので、応援よろしくお願いいいたします。

7 月 3 日 (日) Y1 第 8 節 VS 新庄東 12:00 ~ @日大山形 G

³ スライディングした後のボールがしっかりスライディングした足に確保されているようであればフールにはならなかったのではないかと思います。FW に裏を取られた、という反省はしなければなりません、スライディングを選択したことに間違いはなかったと思います。課題はそのスライディングの質にあり、とりたいと思います。

⁴ ちなみにこの PK における GK サカグチの反応は、以前何かの練習試合で見せたスローモーションとは違って鋭くなっており、改善がうかがえました。

⁵ 結局怒りは、その日夜に開催された第 19 回 (ウソです)「村山地区 夜の顧問会議」にて晴らされました。